

## 中川宋淵老師と或る一高寮歌

竹村 牧男

平成二十六年十一月十日（月）

吾は昭和四十二年、一浪を経て東大文Ⅲに入學せり。入學するや、直ちに陵禪會に入會、坐禪に勵むを目指し居りけり。師家は三島・龍澤寺御住職の中川宋淵老師なりき。毎月、十三日に、十三日會とて、駒場構内の一角に存する三昧堂に來られ、吾等御指導を賜りぬ。宋淵老師は、かつて陵禪會の會歌として、下記の「高寮歌」を指定せられたり。また、その歌を、『般若心經』の歌なるらむとて、常々たいそう愛でられけり。まことに、比類なき味はひなりと吾も覺ゆ。

曉寄する新潮の　その波高く鳴るところ　四海の闇は影潜め

愉快ならずや億劫の　塵にまばゆき光あり

空に無限の座を占めて　きらめき出づる明星の　劫風夕べの鳴りをやめ

四大の荒びをさまりて　千載春の歌を聞く

ああ彼の聲に滅びざる　望みはとはにこもらずや　ああ彼の歌にしほまざる

榮の花は開かずや　覺めよ迷ひの夢覺めよ